

フィッシャー症候群に鍼灸治療が奏功した一症例
A case of Fisher syndrome successfully treated with acupuncture

竹下有^{*1}

^{*1}清明院

Yuu Takeshita^{*1}

^{*1}Seimei-in

【 緒言 】

フィッシャー症候群は、急性外眼筋麻痺、運動失調、腱反射消失を3徴とする免疫介在性ニューロパチーである。今回、脳神経内科で同症候群の重症例と診断された患者に、北辰会方式による鍼灸治療が奏功したので報告する。

【 症例 】

患者：30代男性。164 cm、82 kg。初診日：X年4月下旬。主訴：右眼瞼下垂、複視、両手足の痺れ、脱力感、痒み、右肩凝り。既往歴：花粉症。

現病歴：X年3月に咽喉痛発症。同年4月に両手足に痺れ、脱力感を発症。徐々に悪化し、歩行困難となる。同時に右眼瞼下垂、複視も発症。脳神経内科にて、フィッシャー症候群の重症例と診断され、血漿浄化療法を処置。退院後、諸症状若干緩解するも、手足に搔痒感が出現。休職中であり、職場復帰出来るか不安であり、紹介にて来院。

初診時所見：脈診は滑数実、舌診は白黄膩苔、紅絳～暗紅、顫動(+)、有力。顔面気色診は胃、胆の部位が黄黒色、経穴診は太衝、臨泣、豊隆に過緊張、腹診は右季肋部、両側腹部に過緊張、背候診は右膈俞に過緊張を認め、上背部督脈上の熱感顕著。

弁証：肝胆湿熱。治則・選穴：清肝胆、清利湿熱を目的に、右蠡溝穴に鍼体20 mmのステンレス鍼5番10分瀉法置鍼。初診後約1週間は、その都度選穴し直し、ほぼ毎日治療介入した。

【 治療・経過 】

初診後、眼瞼下垂、複視が劇的に改善し、同時に手足の痺れ、痒みも改善し、5診目（初診の1週間後）には諸症状半減し、職場復帰した。以降、週1回程度治療介入し、1か月半後には諸症状消失し、略治とした。

【 考察 】

本症候群は発症より6か月で回復すると言われているが、本症例では血漿浄化療法が実施され、重症例、あるいは予後における重症化が想定されていた症例であった。回復までに特に有効な治療法がないとされる本疾患において、適切な鍼灸治療は、治癒機転を早め、GBSなどに移行することを予防する効果も期待出来るのではないだろうか。

キーワード：フィッシャー症候群、GBS、少数鍼治療、北辰会方式、弁証論治